

我が国の原子力防災体制の実効性向上へ

災害対策基本法等に基づく指定公共機関として、関係行政機関等への原子力災害時等における人的・技術的支援、原子力災害対策等の強化に貢献しています。

原子力災害対応の実効性向上のための訓練支援や研修の実施

原子力防災訓練等の支援

国の原子力総合防災訓練、道府県防災訓練等への企画段階からの参画や、モニタリング及び避難退域時検査への専門家派遣や運営評価を行いました。



避難退域時検査
(車両検査)の様子



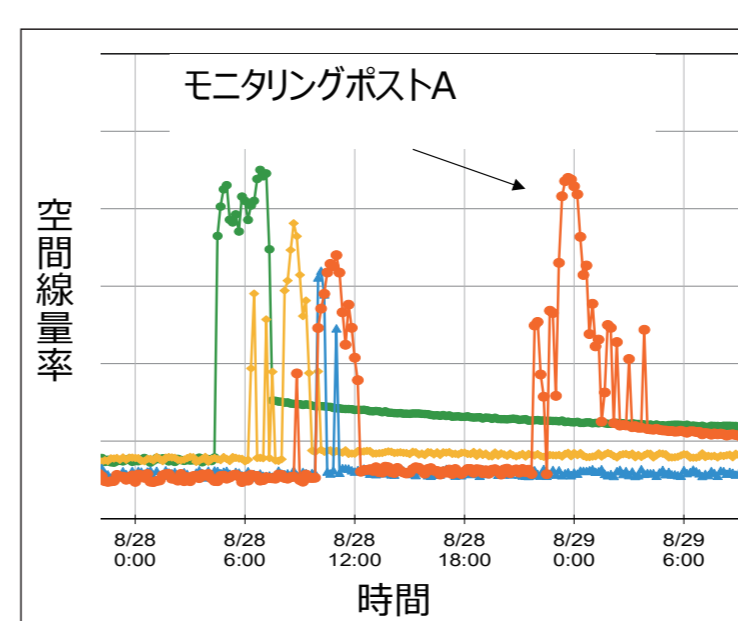
避難退域時検査
(住民検査)の様子

▶ 令和4年度は自治体等から8件の礼状をいただきました。

シミュレーション技術を活用した研修

実気象に基づく仮想事故時の空間線量率評価シミュレーションに基づく訓練システムを開発し、原子力災害対策本部の緊急時対応センター等における中核要員を対象とした実践的訓練を展開しています。

仮想事故データベースに基づき、事故進展状況とモニタリングポストデータを提示



状況把握・議論

- 放射性プルームの拡散を推定する上でのポイントを理解する。
- 住民避難のエリアやそのタイミングの判断力を養う。

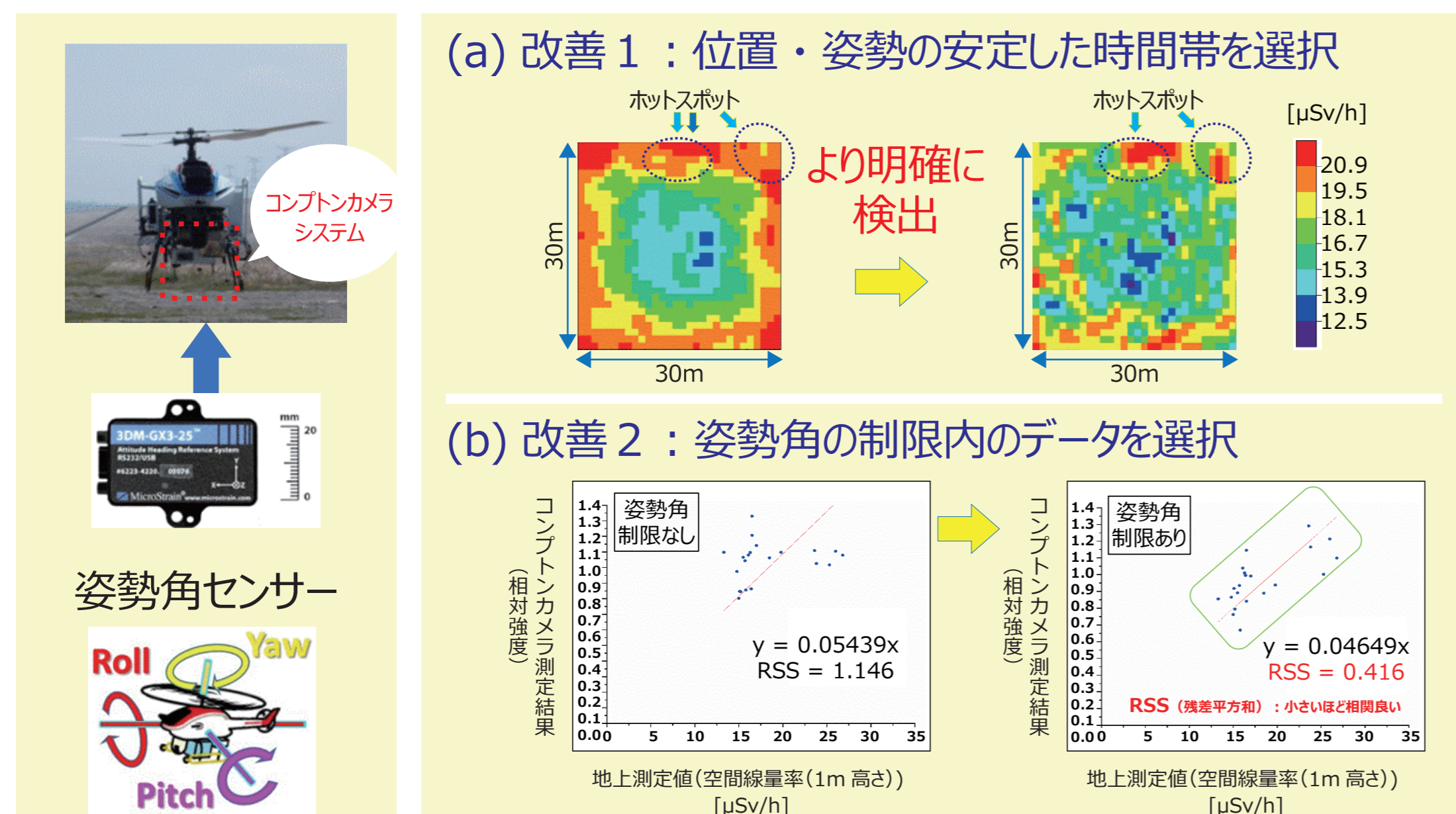
モニタリングポスト指示値の変化から放射性プルームの放出、拡散状況を推定

▶ 放射線防護、地域特性・気象情報等の多様な情報を扱う中核要員の総合的判断能力の醸成に貢献しました。

原子力災害対策等の技術基盤の強化のための研究開発

無人ヘリによる放射線モニタリング

原子力災害時の航空機を用いた放射線モニタリングについて、無人ヘリに姿勢角センサーを取り付け、飛行条件を考慮したデータ解析を導入しました。



▶ ホットスポットの検出精度や周辺線量当量率分布の測定精度が改善されました。

避難における汚染検査の迅速化

原子力災害時には、避難する車両のタイヤとワイパー部の汚染を確認します。渋滞のないスムーズな検査のため、ゲート型測定器を用いてタイヤとワイパー部の同時測定のための技術開発を進めています。

タイヤとワイパー部に汚染を模擬した線源を取り付けガンマ線計数率を測定



▶ 現状のシステムでの課題を整理し、測定器を追加した新たなシステムで技術開発を進めています。